

熱中症指数で高齢者見守りについて



武 幹也
議員

地球温暖化により、昨年や今年の夏も異常と思えるほどの暑さが続き、特に体力低下や体温調節がうまくできない高齢者ほど注意が必要です。

本市の日頃からの見守り活動における取り組みの現状と熱中症対策の取り組みについて伺います。

国の調査では65歳以上の高齢者は、全国の熱中症死亡者数の70〜80%を超える状況です。他市では民生委員の見守り訪問時に、熱中症指数が測定可能で危険度が一目でわかる携帯型チェッカー機器を貸与し、測定し注意を促す活動を行い、早めの水分補給、エアコン使用等、熱中症対策に役立てています。

こうした取り組みについても考えを伺います。

○福祉部長

民生委員により熱中症予防のポイント等をまとめたチラシを配付し、上手なエアコン

の使用、小まめな水分補給等、注意喚起を行っています。

○健康保険部長

防災行政無線や広報かすかべの熱中症記事の掲載、市公式HPやツイッター掲載等、注意喚起を行っています。

今後健康づくりの関係団体や庁内部署等と連携し熱中症対策に取り組み、どのような取り組みが効果的なのか検討を重ね、さらなる強化を図っていきます。

このほか
○避難所保険への加入について

○民泊新法について



熱中症から高齢者を守ろう (イメージ)

老朽化した学校プールは建て替えせず民間水泳施設活用を



井上 英治
議員

インフラの老朽化問題が深刻化してきています。学校プール老朽化対策として、江戸川小中学校で既に行っている民間水泳施設活用や共同利用を拡大すべきとの観点で市の考えを伺いたいと思います。

民間水泳施設活用と共同利用のメリットは、教員のプール管理の負担軽減、天候に左右されない、見学の児童の減少、監視員が不要となった等です。そこで以下伺います。

- ①市内小中学校のプールの数
- ②市内民間水泳施設数、温水平ル施設数
- ③市内学校プールの設置年代別数と耐用年数
- ④新規に設置する場合の費用
- ⑤民間利用の費用
- ⑥教員のプール管理労働時間削減効果は

○学校教育部長

①34施設となります。②6企業が所有する7カ所で、全て温水設備を備えていると伺っています。③築50年以上が4校、40年以上50年未満が18校、

30年以上40年未満が8校、20年以上30年未満が2校、10年以上20年未満が2校で、建築後60年目を建て替えの目安としていますが、維持管理を適切に行えばそれ以上の使用も可能と考えます。④約1億4000万円が見込まれます。

⑤江戸川小中学校の委託金額は303万2640円です。

○学務指導担当部長

⑥指導方法の研究等は必要ですが、水泳指導実施のための環境整備はなくなり、負担軽減につながると捉えています。

このほか

○成年後見制度について

豪雨災害から命を守るために



坂巻 勝則
議員

気象庁によると、統計を取り始めた1976年以降、85年までの10年間の全国の1時間降水量80mm以上の年間発生回数は平均14回でしたが、2018年までの直近の10年間は23回で、約1.6倍に増加しました。このため、風水害が激甚化し、大きな被害が毎

年のように日本各地で出ています。昨年7月の西日本豪雨災害では、河川の氾濫、浸水害等が各地で発生し、死者・行方不明者232名、住宅全半壊6785棟という甚大な被害をもたらしました。その災害では、0.4%の人しか避難せず、大きな被害が出ました。ハザードマップや防災訓練等で、居住地域の危険度や避難方法を的確に把握することが重要です。

また、高齢者などの自力避難困難者も含めた、避難計画の作成も必要です。西日本豪雨災害で倉敷市真備町では、51人が亡くなり、その8割が自力避難困難者でした。

行政が地域に入り、実効性のある避難計画を作成するべきと思いますが、考えを伺います。

○市長公室長

避難計画は、行政主体で作成するよりも、支援される方と支援する方の協働により作られた方が、共通認識が深まり、より実効性の高いものになると考えています。

このほか

○豊春駅東口駅前広場および豊春駅前通りの歩道整備の状況は

一ノ割駅周辺の防犯カメラの
設置状況について



滝澤 英明
議員

毎日のように事故や犯罪のニュースを目にしています。その中で、防犯カメラなどが事件の解決に大きな役割を果たしています。そこで、以下伺います。①市内全体と、一ノ割駅周辺の街頭防犯カメラの設置状況②市設置以外のコンビニやATM、個人宅の設置状況は把握しているのか③一ノ割駅と国道4号線との間には街頭防犯カメラが1台しかないが、設置場所はどのように選定しているのか④今後の防犯カメラの設置について、市はどのように考えているのか。

○市民生活部長

①平成15年度から警察と協議し、年次的に市内の駅周辺に設置しており、市内全体では合計43台設置しています。また、一ノ割駅周辺には、平成16年度に4台設置しました。②市に届け出の必要がないため把握はしていませんが、県

の条例に基づき設置していることから、管理運用を含めて適正な設置と考えています。

③春日部警察署と協議、連携を図りながら、最も防犯効果の高い場所の選定に努めています。④今後は市内の全小学校および義務教育学校の通学路に設置を予定しており、令和元年度には不審者情報などが多い6カ所、令和2年度から令和4年度は、各年度13台から14台の設置を予定しており、4カ年計画でおおむね46台の設置を予定しています。

このほか

○道路の帰属について

人を活かす組織
「春日部市」について



山口 剛一
議員

職員の皆さん、つまり「人財」は組織の要であります。春日部市の発展のためには、何よりも職員の皆さんが「市発展は自分たちの双肩にかかっている」という自覚のもと、プロフェッショナルとしての仕事をしっかりと私たち市民に見せていただき、特に若い

職員の方々は、つまり「若い人財」が10年、20年後に「自分たちが行った施策が市民のためになった!」「まちのたぐりにもっていただけの環境づくりを私たち市民は望んでおります。人財マネジメント基本方針も策定され、1年が経過しました。人事評価を実施して見えた課題と改善策についてお聞かせください。

○総務部長

職員の制度への理解および自らの能力開発につなげることを意識した本制度の活用が、今後の課題と考えています。

職員については、職員アンケート結果を職員にフィードバックして制度への理解を深めるとともに、信頼性と納得度も高めていきます。

また、自らの能力開発につなげることを意識した本制度の活用については、人事評価の項目と、その能力に関連した研修を確認できる関係を整理し、自らの意思でその研修を受講できる体制を整えました。

このほか

○まちづくり事業窓口一本化について
○市民憲章について

江戸川小中学校の
水泳教室について



石川 友和
議員

県内初の義務教育学校として今年度よりスタートした、江戸川小中学校ですが、いろいろな面で特色ある学校運営がされているところだと思います。

そんな中で、特に今回私が注目しているのは、江戸川小中学校で行われている水泳授業を民間委託しているところ。この江戸川小中学校の水泳授業の指導を民間委託したことによるメリットについて伺います。

また、この水泳授業において、子どもたちと教職員、さらには保護者の反応についてはどのようなものがあったのか、伺います。

○学務指導担当部長

メリットの1点目は、専門家と教員による少人数での指導。2点目は、安全体制の充実。3点目は、天候に左右されず、水泳学習を実施できたことです。計画的な実施が可

能となりました。

児童からは、泳力が向上したという意見のほか、学習意欲の高まりを感じる感想等がありました。教職員は、苦手に参加できた、専門的かつ具体的な指導法を学ぶことができた等の意見がありました。

保護者からは、専門的な指導で泳力が向上したという声のほか、子どもが泳げるようになり、自信がついたといった二次的な効果を喜ぶ意見がありました。

このほか

○投票率を向上させるには



水泳をする児童 (イメージ)

**働き方改革に対する
行政の取り組みについて**



海老原光男
議員

働き方改革関連法案の一部が本年、平成31年4月1日より施行されました。大企業、中小企業の区別によつては令和2年、3年から施行のものもありますが、市内には多くの事業者や、そこで働く従業員の方、市民の皆さまがいらつしやいます。その方々に向けての働き方改革についての取り組みについて伺います。

また、庁内における取り組みについても伺います。

○環境経済部長
県では7月から11月を働き方改革推進期間とし、①期間中の第1、第3水曜を県内一斉ノー残業デーとし定時退社を呼びかける②計画的な年次有給休暇の取得を働きかけ、10月を年休取得強化月間とする③以上2点を実施する事業所をワークライフバランス推進宣言企業として募集し紹介する、といった取り組みを実施しており、市でも各種媒体

を通じて周知しています。従業員、市民向けとしては市の単独事業で、市内70店舗以上のご協力のもと、ノー残業デーに定時退社した方を対象にさまざまな特典や割引等のサービスを提供していただく取り組みを実施しています。

○総務部長

これまでの取り組みに加え、職員の時間外勤務時間の上限を原則月45時間、年間360時間とし、月80時間を超えた職員に対して産業医による面接指導を実施するといった取り組みを行い、勤務環境の向上に努めているところです。



ノー残業デーサービス提供チラシ

**「いつでも、誰でも、どこへでも」行ける
公共交通の充実を**



並木 敏恵
議員

春日部市は高齢化率30パーセントを超え、運転免許証を返納する方も増えています。通院、買い物、行事への参加など、公共交通の充実が求められます。そこで、春バスのルートごとの利用状況はどうなっているか伺います。

市民の要望とかみ合っていないルートもあるが、市民と膝を突き合わせて話し合い、いつでも、どこでも、どこへでも行きたい所に行ける改善が必要ではないでしょうか。

○都市整備部長
平成30年度の春バス各路線の1日平均乗車人数は、春日部駅西口から増戸・豊春駅ルートが48人、粕壁から幸松地区ルートが181人、庄和地区北ルートが44人、庄和地区南ルートが42人、豊春駅・内牧・北春日部駅ルートが19人、赤沼から武里駅ルートが22人となっています。

○市長
春バスの運行につきまして、全ての市民が便利に公共交通を利用できる環境となるよう、十分な検討を踏まえ、今後も適切に対応してまいります。

とつて身近な公共交通機関であることから、第三次春バス運行計画の策定にあたっては、市民アンケートや市民要望を受け、運行ルートなど、ニーズに合う運行となるよう検討を行ってきました。

○市長

春バスの運行につきまして、全ての市民が便利に公共交通を利用できる環境となるよう、十分な検討を踏まえ、今後も適切に対応してまいります。

このほか

○子どもの遊びと生活を保障する学童保育へ

専門的部署を設置し、ひきこもりがちな市民への支援を



大野とし子
議員

今年3月内閣府は、40歳から64歳のひきこもり者数は約61万人と発表し、15歳から39歳までと合わせると115万人と言われています。ひきこもる中高年と高齢の親が孤立する「8050問題」も深刻です。ひきこもりとなる要因は不登校から社会との関わり

が無くなる場合、就労はしたけれど続かず、自分は何がしたいのか悩んでいる間に長期化してしまう等さまざまですが、ひきこもりの支援に関わる人たちは、日本は失敗すると自己責任とされてしまうが、そのままの自分でいいんだよ、失敗してもやり直せると受け止められる社会を訴えています。

市においても、ひきこもりがちな市民の思いを受け止めることができる専門的部署を設置すること。身近な所にある「埼玉どうぶ若者サポートステーション」や「埼玉県ひきこもり相談サポートセンター」と連携し、具体的・継続的支援ができる体制を作ることが求められていると考えますが、市の考えを伺います。

○健康保険部長

専門的部署の設置は予定していませんが、各専門機関との連携は大切であり、今後保健センターが中心となり、精神保健福祉連絡会などを通し、関係各課、関係機関との連携の強化を図ってまいります。

このほか

○富小跡地は、地域住民の願いに沿って、地域活性化に資する施設に

東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた春日部市の取り組みについて



岩丸 裕史
議員

オリンピック・パラリンピックの開催まであと1年を切りました。そこで、以下伺います。①これまでの春日部市で行ったオリンピック関連のイベントや活動②聖火リレーの概要③ホストタウン、事前キャンプ④庁内の推進体制およびスケジュール

○総合政策部長

①今年3月、ウイング・ハット春日部で、市主催の機運醸成イベントとしてバスケットボール交流会を開催し、7月にはイオン春日部店で、県が主催した「埼玉で開催！1年前月間イベントin春日部」への出展を行いました。
②本市からはセレモニーを含めた複数のリレールートの提案を行っています。実行委員会から公表されたルートは、旧日光街道「粕壁宿」の街並みと大まかな情報ですが、詳細な情報は、12月に公表予定です。

③本市では、残念ながらホストタウン登録には至っていませんが、現在エジプトのチームから事前キャンプ地の候補として打診があり、受け入れが実現した場合はホストタウンとしての関係を結ぶ可能性も高くなると想定しています。

④市組織全体で情報共有を行い、比較的短期間に集中した取り組みとなりますので、スピード感を持って必要な財源措置などの準備と併せて進めていきます。

このほか

○春日部市におけるSDGsの推進について

古隅田川流域の冠水、浸水対策



水沼日出夫
議員

古隅田川流域では近年特に住宅街を流れる上流や支流域で冠水、浸水の原因となる庭先水路近辺の内水氾濫が発生しやすくなっています。これまでも河川の排水力強化や調節池の整備等が課題となり、要望として挙げられてきましたが、今回は古隅田川流域の

箇所ごとの具体的な対策の概要や進捗状況をお伺いします。

○建設部長

古隅田川流域では、浸水被害軽減のため、県が下流から改修工事を進めており、現在、浜川戸橋の上下流一部区間を除く大落古利根川との合流部から、かえで通りにかかる橋の下流側約120m地点までの改修工事が完了しています。今後上流に向け河川改修を進めていく予定です。

また、浜川戸橋では古隅田川の河川改修に伴い、橋長を倍の約50mに広げる工事を市で実施しています。これにより流下能力が向上し、浸水被害の軽減が図れます。

古隅田川流域の洪水を調節する上院調節池は、計画貯留量約20万トンのうち18万トンが完成しており、現在、県が雑草等の繁茂で越流堤の流水機能に障害が生じないよう河床を掘削し、石入りのかごを敷き並べる工事を実施しています。今後も調節池より上流側の改修を行う予定です。

このほか

○データから見た定住促進策について
○駅近隣私道の防犯と交通安全について

春日部の農業を守ろう！



岩谷 一弘
議員

市内農業は、経営者の高齢化や後継者不足により農家数や農業就業人口、経営耕地面積は年々減少し、農用地利用の低下や耕作放棄地が増えていきます。農家が農業経営を拡大していくには農地の利用集積により効率的な農業経営にしていくことが重要だと考えます。そこで、農業経営法人化について、また、農産物の販売並びに魅力向上のための6次産業や農産物ブランド化の取り組みについて伺います。

○環境経済部長

市内の農業経営者は、個人または家族による経営がほとんどであり、個々における農業経営の拡大や販路の拡大、経営改善などにおいては限界があります。埼玉県では法人化推進事業として認定農業者などの担い手に対して個別指導や研修会、普及指導員による支援、専門家の派遣などを実施しており、市では、この

活用促進を図っています。

6次産業の推進については、埼玉県が支援事業として実施しており、既にあられやコロッケ、ドライフルーツやジャム、ジュースなどの農産物加工品を手がけている農業経営者もいます。農産物では、春日部甘熟梨や江戸川ナスを市広報等を通じてPRしてきましたが、今や市を代表する農産物ブランドとして認知されてきているところです。今後市内の優れた農産物をアピールし、支援していきます。

このほか

○健康長寿を目指して



農産物の魅力向上を（イメージ）

キャッシュレス決済について



木村 圭一 議員

日本のキャッシュレス決済は、約20%となっており、海外諸国と比較しても日本は十分に進展していない現状があります。しかしながら、これからの時代はキャッシュレス化の波は後退することなく、間違いなく進んでいくものと考えているところです。

本市でも水道料金、各種税および各手数料等の支払い、特に市民の方が多く利用している窓口の支払いなどについては、市民の皆さまの利便性の確保の観点から積極的に交通系ICカードや、スマートフォンアプリなどのタッチ決済などを含めて、キャッシュレス化を進めるべきと考えますが、本市としては、今後どのようにキャッシュレス化を進めていく方向なのかお伺いします。

○会計管理者
キャッシュレス化の流れは確実に拡大していくものと認

識しており、導入に当たっては、交通系ICカードなどの汎用性や普及率をはじめ導入に際しての初期投資、導入後の運営経費といった費用とともに、持ち時間の短縮、事務処理効率の向上などの費用対効果など十分比較検討しつつ、全庁的に歳入の洗い出しをはじめとするさまざまな準備作業を進めていく必要があると考えています。

このほか
○幼児教育・保育の無償化について
○わんわんパトロールについて

今定例会傍聴状況

月日	傍聴者数	主な日程
8/26	1	上程・説明
29	1	質 疑
30	1	質 疑
9/2	0	質 疑
3	1	質 疑
5	3	委員会
6	6	委員会
10	24	一般質問
11	29	一般質問
13	11	一般質問
17	19	一般質問
18	30	一般質問
20	1	討論・採決
合計	127	

傍聴して一言

喫煙者、非喫煙者がお互い納得して快適な生活をしていくためにも、分煙をより強化していく必要があると感じた。クレヨンしんちゃんのブランドや春日部市の知名度をもっと有効活用して春日部市を盛り上げていきたい。

男性・20歳

動物に関する質問内容とても良かったです。日頃こちらが思っていることをよく言ってくれたという思いです。それに関しての答弁にはびっくりでした。飼い主のいない猫の命をどう思っているのでしょうか。全く残念な答えでした。

女性・61歳

初めての傍聴でしたが議会は大変厳粛かつ慎重に審議されていたと思えました。何より市民は議会に対して関心をもち常に向上するように1人ひとりが心掛け、市の発展に力を添えられるようにしよう。と強く思いました。

女性・83歳

※割愛させていただいた部分もあります。

編集後記

追々寒さに向かいますが、皆さまにおかれましては、変わりなくお過ごしでしょうか。さて、9月定例会では、平成30年度の一般会計、各特別会計、事業会計決算について認定するかどうか、討論・議論が行われました。

このほか、注目される動きとしては、子ども医療費に関する議案が提出されました。現在、本市では通院費・入院費とも満15歳まで助成され無料となつていますが、同議案は来年度から入院費の助成対象範囲を満18歳まで拡大する内容で、全会一致で可決されました。市はこれまでも子ども医療費の助成対象範囲を段階的に拡大してきましたが、この方針に沿った動きです。

併せて、自治体間で子ども医療費助成が異なる現状を踏まえ、国に対して中学卒業まで全国一律で医療費が無料になるよう要求する「子ども医療費無料制度の創設を求める意見書」も採択されました。さらなる市民サービス向上のため、今後も議員一同、一生懸命取り組んでまいります。

広報広聴委員会

- 委員長 古沢 耕作
- 副委員長 坂巻 勝則
- 委員 榛野 博
- 委員 石川 友和
- 委員 今尾 安徳
- 委員 吉田 稔
- 委員 鈴木 一利
- 委員 武 幹也
- オブザーバー
- 議長 金子 進
- 副議長 海老原光男

〒344-8577

埼玉県春日部市中央六丁目2番地

春日部市議会

TEL 048-736-1111(代表)

内線3116

本会議の傍聴を希望される方は、市役所本庁舎3階の傍聴者受付で、住所および氏名をご記入の上、傍聴券を受け取り、傍聴席に入場してください。傍聴席は56席(車イス傍聴席2席含む)となります。本会議は、通常午前10時から開催します。

11月の定例会は
開会予定日(月)
11月25日(月)
開会予定です

